

平成25年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年9月28日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社大光

コード番号 3160 URL <http://www.oomitsu.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 金森 武

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長兼総務部長

(氏名) 秋山 大介

TEL 0584-89-7777

四半期報告書提出予定日 平成24年10月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年5月期第1四半期の連結業績(平成24年6月1日～平成24年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年5月期第1四半期	10,035	1.6	△71	—	△59	—	△53	—
24年5月期第1四半期	9,875	—	49	—	48	—	20	—

(注) 包括利益 25年5月期第1四半期 △37百万円 (—%) 24年5月期第1四半期 4百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年5月期第1四半期	△9.17	—
24年5月期第1四半期	3.56	3.55

(注) 平成24年5月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年5月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
25年5月期第1四半期	15,975	—	1,934	—	12.1	—	330.51	
24年5月期	15,783	—	1,999	—	12.7	—	341.97	

(参考) 自己資本 25年5月期第1四半期 1,934百万円 24年5月期 1,999百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年5月期	—	5.00	—	5.00	10.00
25年5月期	—	—	—	—	—
25年5月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年5月期の連結業績予想(平成24年6月1日～平成25年5月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,752	4.1	106	△32.8	98	△39.9	43	△46.1	7.44
通期	43,165	4.4	575	18.5	565	15.3	325	44.2	55.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年5月期1Q	5,952,000 株	24年5月期	5,947,600 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

25年5月期1Q	100,004 株	24年5月期	100,004 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年5月期1Q	5,850,074 株	24年5月期1Q	5,830,396 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による景気の低迷から持ち直しつつあり、個人消費の落ち込みから回復の兆しはみられるものの、欧州の債務問題などによる世界経済の低迷や長期化する円高により、景気の先行きは不透明なまま推移いたしました。

当社グループの主要販売先である外食産業におきましては、消費者の節約志向・低価格志向は根強く、引き続き厳しい経営環境が継続しております。

このような環境のなか、当社グループでは業務用食品等の卸売事業である「外商事業」において、関東地区における新規開拓の強化に加え、前連結会計年度に獲得した新規得意先が寄与し、売上が伸びました。また、業務用食品等の小売事業である「アマカ事業」において、既存店舗のリニューアルを行うなど、来店客数の増加に向けた取り組みを進めてまいりました。

両事業におきましては、収益性の向上を図るため、当社プライベートブランド商品や業務用食品販売事業者の共同オリジナルブランドの販売強化と全社的な業務の効率化を継続して行っております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は100億35百万円（前年同期比1.6%増）となったものの、営業強化及び店舗の増加等による人件費の増加や売上増に伴う運搬費の増加等により、営業損失は71百万円（前年同期は営業利益49百万円）、経常損失は59百万円（前年同期は経常利益48百万円）、四半期純損失は53百万円（前年同期は四半期純利益20百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(外商事業)

当事業におきましては、関東地区における新規得意先の獲得に注力するため、平成24年6月の組織変更により東京支店（東京都中央区）を分割し、横浜支店（横浜市青葉区）を開設いたしました。関東地区においても、大手外食チェーンのほか、ホテルやレストランなど幅広い外食産業のお客様に対応できる体制を整えました。

また、提案型営業を強化するため、商品知識の向上に取り組むほか、商品提案会を実施するなど、既存得意先の深耕に努めるとともに、継続して物流業務の改善に取り組み、一括物流における収益改善を進めております。さらに、前連結会計年度に獲得した新規得意先が好調に推移し、売上を伸ばしております。

この結果、外商事業の売上高は60億51百万円（前年同期比3.5%増）となり、営業損失は79百万円（前年同期は営業損失80百万円）となりました。

(アマカ事業)

当事業におきましては、より快適にお買い物いただけるよう、平成24年7月に大曽根店（名古屋市北区）をリニューアルオープンし、売場や取扱商品の見直しを行うとともに、その他店舗においても、営業活動の強化を図り、客数の増加に努めてまいりました。大曽根店のリニューアルに伴う休業があったものの、前連結会計年度に開設したネットショップ及び中津川店が売上拡大に寄与いたしました。

一方で、店舗の増加及びリニューアルに伴い諸経費を計上したほか、光熱費の上昇等により経費が増加いたしました。

この結果、アマカ事業の売上高は38億1百万円（前年同期比1.5%増）となり、営業利益は2億69百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、愛知県・岐阜県を中心として36店舗であります。

(水産品事業)

当事業におきましては、連結子会社である株式会社マリンドリカにおいて、外商事業及びアマカ事業との連携を図り、当社グループの水産品ラインナップの強化を推進するとともに、営業の人員を増強するなど販路の拡大に努めてまいりましたが、相場下落など主力商品を取り巻く環境は厳しく、売上高が減少いたしました。

この結果、水産品事業の売上高は1億82百万円（前年同期比34.9%減）となり、営業損失は32百万円（前年同期は営業利益27百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末と比較して受取手形及び売掛金が81百万円増加したものの、現金及び預金が1億31百万円減少したこと等により、流動資産は全体で1百万円減少しました。一方固定資産は、建物及び構築物が47百万円減少したものの、投資有価証券が2億27百万円増加したこと等により、全体で1億93百万円増加しました。その結果、資産総額は前連結会計年度末と比較して1億92百万円増加し、159億75百万円となりました。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して未払法人税等が1億46百万円減少したものの、短期借入金が8億90百万円増加したこと等により、流動負債は全体で5億94百万円増加しました。一方固定負債は、長期借入金が3億83百万円減少したこと等により、全体で3億36百万円減少しました。その結果、負債総額は前連結会計年度末と比較して2億57百万円増加し、140億41百万円となりました。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して利益剰余金が82百万円減少したこと等により、全体で65百万円減少し19億34百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年5月期の業績予想につきましては、平成24年7月13日に公表しました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年6月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失は、それぞれ1,182千円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	822,026	690,745
受取手形及び売掛金	3,312,495	3,393,834
商品	2,838,101	2,870,713
貯蔵品	8,237	6,963
繰延税金資産	106,045	106,879
その他	683,171	700,092
貸倒引当金	△21,619	△22,302
流動資産合計	7,748,457	7,746,925
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,238,707	4,191,190
その他(純額)	935,634	962,260
有形固定資産合計	5,174,341	5,153,451
無形固定資産		
63,821		61,845
投資その他の資産		
投資有価証券	1,337,762	1,565,585
その他	1,542,376	1,525,261
貸倒引当金	△83,033	△77,106
投資その他の資産合計	2,797,105	3,013,740
固定資産合計	8,035,268	8,229,037
資産合計	15,783,726	15,975,962

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,010,746	4,001,241
短期借入金	2,670,000	3,560,000
1年内返済予定の長期借入金	1,937,120	1,877,260
未払法人税等	153,256	6,725
賞与引当金	144,517	75,433
ポイント引当金	25,283	26,318
その他	586,490	574,939
流動負債合計	9,527,414	10,121,918
固定負債		
長期借入金	3,606,553	3,222,993
退職給付引当金	175,206	182,238
役員退職慰労引当金	210,474	216,343
資産除去債務	232,714	233,915
その他	31,683	64,438
固定負債合計	4,256,631	3,919,928
負債合計	13,784,046	14,041,847
純資産の部		
株主資本		
資本金	464,302	464,940
資本剰余金	368,174	368,808
利益剰余金	1,260,988	1,178,110
自己株式	△33,901	△33,901
株主資本合計	2,059,563	1,977,957
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59,884	△43,884
繰延ヘッジ損益	—	42
その他の包括利益累計額合計	△59,884	△43,841
純資産合計	1,999,679	1,934,115
負債純資産合計	15,783,726	15,975,962

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年8月31日)
売上高	9,875,374	10,035,857
売上原価	7,856,013	8,013,823
売上総利益	2,019,361	2,022,033
販売費及び一般管理費	1,970,001	2,093,922
営業利益又は営業損失(△)	49,360	△71,888
営業外収益		
受取利息	2,940	3,435
受取配当金	3,208	2,070
受取賃貸料	7,316	10,724
受取手数料	3,049	4,445
受取和解金	—	11,464
その他	6,206	7,748
営業外収益合計	22,720	39,889
営業外費用		
支払利息	14,089	12,936
賃貸費用	6,413	9,606
その他	3,474	4,723
営業外費用合計	23,978	27,266
経常利益又は経常損失(△)	48,102	△59,265
特別利益		
投資有価証券売却益	23,827	85
負ののれん発生益	476	—
特別利益合計	24,304	85
特別損失		
固定資産除売却損	12,795	—
投資有価証券評価損	7,824	—
特別損失合計	20,619	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	51,787	△59,180
法人税、住民税及び事業税	8,514	2,266
法人税等調整額	18,192	△7,806
法人税等合計	26,706	△5,539
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	25,080	△53,640
少数株主利益	4,325	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	20,755	△53,640

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	25,080	△53,640
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,288	15,999
繰延ヘッジ損益	△251	42
その他の包括利益合計	△20,540	16,042
四半期包括利益	4,539	△37,597
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	285	△37,597
少数株主に係る四半期包括利益	4,254	—

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成23年6月1日 至平成23年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	外商事業	アミカ事業	水産品事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,848,518	3,745,967	280,888	9,875,374	—	9,875,374
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	5,057	144	5,202	△5,202	—
計	5,848,519	3,751,024	281,032	9,880,576	△5,202	9,875,374
セグメント利益又は損失(△)	△80,795	288,944	27,280	235,428	△186,068	49,360

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△186,068千円は、当社の本社経費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要な事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成24年6月1日 至平成24年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	外商事業	アミカ事業	水産品事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,051,058	3,801,924	182,875	10,035,857	—	10,035,857
セグメント間の内部売上高又は振替高	3	5,355	9,281	14,639	△14,639	—
計	6,051,061	3,807,279	192,156	10,050,497	△14,639	10,035,857
セグメント利益又は損失(△)	△79,626	269,405	△32,521	157,257	△229,146	△71,888

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△229,146千円は、当社の本社経費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要な事項はありません。